

令和元年6月21日現在

機関番号：26401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K12263

研究課題名(和文)在宅褥瘡ケアにおける訪問看護師の判断とケアのガイドラインの開発

研究課題名(英文)Development of the care guidelines for home care patients with pressure ulcers

研究代表者

小原 弘子(KOHARA, HIROKO)

高知県立大学・看護学部・助教

研究者番号：20584337

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、「在宅褥瘡ケアにおける訪問看護師の判断とケアのガイドライン」を開発することである。本研究の成果は以下であった。(1)高知県下の褥瘡を保有する在宅療養者の実態調査を行い、在宅療養者が保有する褥瘡の特徴、褥瘡ケア内容について明らかにした。(2)高齢患者における身体的特徴および皮膚生理学的指標の特徴を明らかにした。(3)訪問看護師を対象にインタビュー調査を行い、在宅褥瘡ケアにおける訪問看護師の判断内容と専門職間連携を含むケア内容を明らかにした。(4)「在宅褥瘡ケアにおける訪問看護師の判断とケアのガイドライン」を作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「高知県内における褥瘡を保有する在宅療養者の実態調査」は、高知県下では初の実態調査となった。高知県下の在宅療養者の褥瘡有病率は2.85%であること、褥瘡有病者の平均年齢は73.8歳であることなど、高知県下の在宅褥瘡有病者の実態を示した意義は非常に大きい。また、褥瘡発生リスクの高い高齢患者に特化して、身体的特徴および皮膚生理学的指標の特徴について明らかにしたことも、過去にこのような研究はなく、意義は大きい。今後、これらの結果をもとにしたガイドラインは、訪問看護師にとって有用であると考えられる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to develop of the care guidelines for home care patients with pressure ulcers. The outcomes of the study are summarized into following four points.

(1) We conducted the study to investigate the prevalence of pressure ulcers among the home care patients in Kochi prefecture. We found the characteristics of home care patients with pressure ulcers in Kochi prefecture. (2) We examined the demographic and clinical characteristics of elderly bedridden patients with pressure ulcer risk. (3) We clarified the characteristics of care for home care patients with pressure ulcers provided by visiting nurses. (4) We developed "Care guidelines for home care patients with pressure ulcers".

研究分野：高齢者看護

キーワード：褥瘡 在宅療養者 皮膚検査 皮膚生理学的指標 リスク 訪問看護師

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2010年の日本褥瘡学会調査によると、訪問看護ステーションでは、褥瘡有病率・推定褥瘡発生率が医療機関や介護施設の中で最も高く、病院での褥瘡発生率は低下している一方で、自宅から病院への持ち込み褥瘡が問題になっている。このことから、在宅療養者への褥瘡ケアの質向上への取組は重要である。しかし、実際は、食事・清潔・除圧といったケアだけでなく、創部の洗浄までも家族や介護職などの非医療職が実施している、皮膚科医など、専門医による治療が受けられず、適切な薬剤の処方や創処置が迅速に行われない(日本褥瘡学会、2008)というケアや治療に関する課題がある。さらには、在宅では最も強い褥瘡発生因子が栄養低下であるにもかかわらず、管理栄養士や歯科医、歯科衛生士が、予防の段階からかわる症例は極少数であることや(日本褥瘡学会、2008)短期入所施設や通所介護施設の利用中に褥瘡発生や褥瘡悪化をきたしている、という連携に関する課題もある。このような在宅褥瘡ケアにおけるケアや治療、連携に関する課題を解決するためには、身体情報と生活環境情報を連携させてアセスメントし、看護ケアを提供している訪問看護師が、療養者と家族の状況に即した適切な治療とケアを判断し、適切な時期に、必要な専門職からケアや治療が提供されるよう、他職種・他組織に働きかけることが重要である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、在宅褥瘡ケアにおいて、訪問看護師が、身体情報と生活環境情報からどのような判断のもと、専門職間連携を含め、どのようなケアを決定しているのかを明らかにし、その結果から、「在宅褥瘡ケアにおける訪問看護師の判断とケアのガイドライン」を開発することである。研究目標は、以下の2つである。

研究目標 1: 在宅褥瘡ケアにおける訪問看護師の判断内容と専門職間連携を含むケア内容を明らかにする。

研究目標 2: 明らかになった判断内容とケア内容を体系化し、ガイドライン(案)を作成、洗練化する。

3. 研究の方法

研究目標 1: 在宅褥瘡ケアにおける訪問看護師の判断内容と専門職間連携を含むケア内容を明らかにする。

高知県下の褥瘡を保有する在宅療養者の実態調査を行い、在宅療養者が保有する褥瘡の特徴、褥瘡ケア内容について明らかにする。

高齢患者における身体的特徴および皮膚生理学的指標の特徴を明らかにする。

訪問看護師を対象にインタビュー調査を行い、在宅褥瘡ケアにおける訪問看護師の判断内容と専門職間連携を含むケア内容を明らかにする。

研究目標 2: 在宅褥瘡ケアにおける訪問看護師の判断内容と専門職間連携を含むケア内容を明らかにする。

研究目標 - の結果を統合し、判断内容とケア内容を体系化し、ガイドライン(案)を作成、洗練化する。

4. 研究成果

研究目標 1

高知県下の褥瘡を保有する在宅療養者の実態調査を行い、在宅療養者が保有する褥瘡の

特徴、褥瘡ケア内容について明らかにする。

高知県内の訪問看護ステーション 52 施設および医療機関の訪問看護部門 26 施設の計 78 施設に調査表を配布した。褥瘡有病率は 2.85%であった。褥瘡発生部位は、仙骨部 (37.0%)、坐骨部 (17.8%)、踵部 (13.7%) の順で多く、褥瘡深達度の内訳は、d1 (28.8%)、d2 (28.8%)、D3 (24.7%) の順で多かった。保有期間は、1 ヶ月以上 3 ヶ月未満 (41.1%) が最も多く、1 年以上の保有 (28.8%) が続いていた。褥瘡有病者の平均年齢は 73.8 歳であり、加齢に伴う疾患や悪性腫瘍により活動範囲や活動量が低下したこと、脊椎疾患や脳血管疾患、複数の疾患による身体状態の悪化によって、自力で体を動かせないことが褥瘡発生の背景にあると考えられた。

局所ケアについては、特に、皮膚科や形成外科専門医以外が治療を行っている場合、滅菌済非固着性パッドの処方や軟膏処方について医師との交渉が難しいことが多く聞かれた。経済的理由でオムツや尿パットを使用しており、褥瘡に不適な軟膏の使用も見られた。体圧分散ケアについては、体圧分散マットレスの導入はされているものの、体位交換は規則的に行われておらず、介護者の生活状況に合わせて実施されていた。栄養管理においては、血清 Alb 値や Hb 値が基準値以下にも関わらず、栄養補助食品はほとんど活用されていなかった。その理由として訪問看護師は経済的問題を上げており、中には試食品でまかなう状況もあった。

結果より、適切な時期に必要な専門職からケアや治療が提供されるようマネジメントする役割が、訪問看護師に求められていると考えられた。

高齢患者における褥瘡発生リスクに関連する情報を収集し、その特徴を明らかにする。

入院中の高齢患者 55 人を対象に、診療記録、看護記録および患者の観察から、年齢・性別などの基本情報と褥瘡危険因子に関わる情報を収集した。褥瘡危険因子に関わる情報は、血液検査データ (血清 Alb 値、血清 TP 値、赤血球数、Hb 値、Hct 値)、Braden スケールの評価項目 (知覚の認知、皮膚が湿潤にさらされる程度、行動の範囲、体位を変えたり整えたりできる能力、普段の食事摂取状況)、Mini Nutritional Assessment®-Short Form (以下 MNA®-SF) の項目 (過去 3 か月間の食事摂取量の減少、過去 3 か月間の体重減少、自力で歩けるか、神経・精神的問題の有無、BMI 値) であった。

高齢患者の平均年齢は、 82.4 ± 9.8 歳であり、性別は、男性 23 人、女性 32 人であった。障害高齢者の日常生活自立度については、C2 が 21 人、C1 が 7 人、B2 が 24 人、B1 が 3 人であった。認知症高齢者の日常生活自立度については、該当なしが 24 人と最も多く、これらの患者は、脳血管疾患による意識障害のある患者であった。高齢患者の平均 BMI 値は 19.7 ± 3.6 であった。高齢患者の血液検査値では、血清 Alb 値は $3.4 \pm 0.5\text{g/dl}$ と基準値より低く、血清 TP 値は $6.7 \pm 0.7\text{g/dl}$ と基準値下限であった。高齢患者の赤血球数は、 372.5 ± 66.2 万個/ μl と女性の基準値より低く、Hb 値は $11.7 \pm 2.1\text{g/dl}$ 、Hct 値は $35.7 \pm 6.0\%$ と女性の基準値下限であった。患者の平均 BS 値は、 12.3 ± 3.2 点であった。高齢患者全員が、国外における褥瘡発生リスクのカットオフ値である 18 点以下であり、うち 36 人が国内における褥瘡発生リスクのカットオフ値である 14 点以下であった。患者の平均 MNA®-SF 値は、 8.0 ± 2.2 点であった。高齢患者のうち 1 人のみが「栄養状態良好」の評価であり、29 人が「低栄養のおそれあり」、25 人が「低栄養」と評価された。高齢患者の褥瘡好発部位 (背部、仙骨部、両踵部の 4 か所) における皮膚生理学的指標値は、踵部の角質水分量の著明な減少、背部および仙骨部の皮膚弾力値の低下、仙骨部皮膚厚の減少であった。一方、褥瘡発生リスクの高い高齢患者であっても、皮膚温や TEWL 値は、比較的よい状態を保たれていた。

結果より、高齢患者において、低栄養状態であること、日常生活自立度が低いことが、身体的特徴であることがわかった。栄養状態の査定には、MNA®-SF が有用であるということがわか

った。踵部の角質水分量、背部および仙骨部の皮膚弾力値、仙骨部皮膚厚は、高齢患者への褥瘡危険因子の変数として活用できる可能性があると考えられた。

訪問看護師を対象にインタビュー調査を行い、在宅褥瘡ケアにおける訪問看護師の判断内容と専門職間連携を含むケア内容を明らかにする。

高知県内の訪問看護師4人に、褥瘡を保有する在宅療養者に対し、どのような判断のもとどのような治療・ケアを決定し、行動をとったのかについて、インタビューによる聞き取り調査を行った。計8事例のデータを収集、判断内容とケア内容に分類し、同じ意味のものでまとめた。

訪問看護師の判断には、「保有褥瘡の状態と局所治療薬およびドレッシング剤の選択」「褥瘡危険因子および生活状況を踏まえた適切な支援体制」があった。ケア内容には、「ケアマネジャーを中心に多職種で話し合い、治療につなげる」「生活に潜む治療遅延要因を見極め、要因除去に取り組む」「長期間、根気よく療養者に関わり続け、褥瘡が再発しない体制を作る」「栄養摂取も取り入れて治療につなげる」があった。

研究目標2

研究目標 - の結果を統合し、「在宅褥瘡ケアにおける訪問看護師の判断とケアのガイドライン」を作成した。ガイドラインは、在宅褥瘡ケアにおける訪問看護師の判断内容として「保有褥瘡の状態と局所治療薬およびドレッシング剤の選択」「褥瘡危険因子および生活状況を踏まえた適切な支援体制」の2項目、在宅褥瘡ケアにおける訪問看護師のケア内容として、「ケアマネジャーを中心に多職種で話し合い、治療につなげる」「生活に潜む治療遅延要因を見極め、要因除去に取り組む」「長期間、根気よく療養者に関わり続け、褥瘡が再発しない体制を作る」「栄養摂取も取り入れて治療につなげる」3項目からなる。判断内容である「褥瘡危険因子および生活状況を踏まえた適切な支援体制」について、褥瘡危険因子には、従来褥瘡危険因子として挙げられた項目に、本研究で明らかとなった「皮膚厚」「皮膚弾力」「皮膚紅斑」も項目として加えた。

今後は、訪問看護師に実践にて活用していただき、さらに洗練するとともに、高知県下の訪問看護ステーションに普及させていく予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

小原弘子、池田光徳、井上正隆、森下幸子：高知県内における褥瘡を保有する在宅療養者の実態調査、高知女子大学看護学会誌、42(2)、62-70

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6．研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：池田光徳
ローマ字氏名：IKEDA MITSUNORI
所属研究機関名：高知県立大学
部局名：看護学部
職名：教授
研究者番号（8桁）：70212785

(2)研究協力者

研究協力者氏名：森下安子
ローマ字氏名：MORISHITA YASUKO
所属研究機関名：高知県立大学
部局名：看護学部
職名：教授
研究者番号（8桁）：10326449

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。